

薬学研究科 医療栄養学専攻(博士前期課程)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)】

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)は、次に掲げる資質・能力を醸成し、さらに医療栄養学専攻(博士前期課程)のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された人に対して修士(医療栄養学)の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会でリーダーとして活躍できる能力
- 栄養学・栄養管理、薬学、医学の素養を身につけた高度専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会において貢献する態度
- 生命科学の進展の成果を基礎として、食、薬、毒の生体作用を、物質によって引き起こされるものとして同列に議論することができる能力
- 食品と薬の相互作用を念頭に置き食毒性を考慮した高度な栄養管理と栄養教育の実践、食品を生理学的、薬力学的、毒性学的に評価し、これらがヒト恒常性に与える影響を分子のレベルで理解、健康と栄養を政策面・管理面から広く評価・実践、のいずれかができる能力
- 医療栄養学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、種々要因のグローバルな変化が地域社会で暮らす一人ひとりの健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の醸成のために以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端医療栄養学特論、総合医療栄養学演習、病院・保険薬局実習を含む各分野の特論を選択・必修科目として、高度で専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野をもち、地域社会の維持・発展に寄与する栄養管理における専門職業人を養成します。
- 特論演習では、それぞれが専門とする分野において求められるスペシャリストとしての高度な知識と技能の修得を目指します。
- 修士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションをとおして課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させ、研究科委員会における総括的評価により、極めて高度な研究能力を有することを確認します。

- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。
- 学生個人の教育評価は、修了要件単位数の充足、修士論文等の評価、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かします。

● 【アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)】

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)では、城西大学の建学の精神と薬学研究科の教育研究上の目的を理解するとともに、本専攻のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の修得を目指す以下のような人の入学を期待します。

- 大学または社会で学んだ教養を深化させ、医療栄養学の専門知識をさらに向上させ、個々人の主観的 QOL (quality of life: 生活と人生の質) を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えること、先進の探求的研究に基づく知見を常に広く収集すること、医療倫理について深く考察すること、などに意欲的に取り組むことができる人
- 医療栄養学専攻(博士前期課程)において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人

入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目: 卒業研究、英語、生化学、生理学、栄養学、薬理学、公衆衛生学、医療栄養学

入学者の受け入れは、以下の点に留意して実施します。

- 医療栄養学専攻(博士前期課程)の教育研究上の目的に相応しい人材を面接試験により評価・審査します。
- 卒業研究などのこれまでの研究経験に関するプレゼンテーションにより、基本的な研究能力とプレゼンテーション能力を評価・審査します。
- 医療栄養学の研究をする上で必要な英語、生化学、生理学、栄養学、薬理学、公衆衛生学、医療栄養学の理解度を評価・審査します。

(2023 年 4 月入学者用)